

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2004. 2

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 238

日本野鳥の会 埼玉県支部

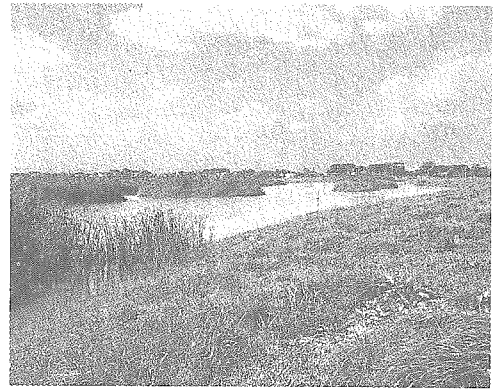
緑の丘公園（仮称）へ集まってくる鳥たち

橋口長和（春日部市）

春日部と松伏の境にコミミズクが入っているとの情報を得たのは、1999年1月のことでした。県道岩槻野田線の赤沼交差点から野田方向にしばらく行くと右手に広大な草地が広がっていました。1998年に公園予定地として田圃が買い上げられ、草地になったところにコミミズクがはいったのです。最盛期には5羽のコミミズクが確認でき、夕刻狩りのために飛び回る姿を頻繁に見せてくれるようになったのです。2シーズン楽しませてくれたコミミズクも、2001年に公園の工事が始まり、予定地の除草とともに姿を見せなくなっていました。

埼玉県松伏町大字大川戸の、26.5haもの田圃の中に、埼玉県が工事に着手した『緑の丘公園（仮称）』は、公園予定地航空写真でも判るように、中川と古利根川に挟まれた平坦な田園地帯にあり、予定地の東側には2倍以上の広さの田圃が連なっています。都市の基盤整備に伴い発生する建設残土を活用しながら、地域のランドマークとなる緑豊かな小高い丘を築くなど、「人と環境にやさしい都市公園」として、ふるさと意識の醸成や真の豊かさを実感できる、個性と特色ある公園として計画されています。完成までに20年をかけ、少しずつ公園として整備していくという気の遠くなるような計画ですが、スローが見直されてきた昨今、的を射た計画でもあります。完成予想図から見ると、東側に大きな池と西北に丘と林が配置されています。昨年度までに池がほぼ完成し、今年度は南側の駐車場の工事が始まっています。

コミミズクと入れ替えに、工事で掘られた人工池にカモが来るようになりました。私の家から自転車で15分というロケーションと、20年かかってどんな公園になるか興味もあったため、2001年10月から月に一回、野鳥の観



察を始めることにしました。私のフィールドノートから、この3年間を振り返ってレポートいたします。

2001年の工事で、池の南側3分の2が掘られました。いくつかの小島が配置され、比較的浅い部分が夏の間に完成しました。池に水が溜まり、10月になるとマガモ、カルガモ、コガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、キンクロハジロと7種のカモが入りました。その後、ハシビロガモ、ホシハジロ、ミコアイサが加わり、このシーズン中10種のカモ類を数えました。

2002年2月11日には、公園予定地と南東部の畑から古利根川のコースを設定し、支部の探鳥会を初めて開催しました。参加者はさすがに少なかったですが、観察鳥種は33種になりました。公園の南東部は畑と住宅が混在しており、農家の屋敷林にはシジュウカラ、コゲラ、メジロやシメ、ジョウビタキなど冬鳥が見られます。古利根川にはカモの他、対岸の越谷市船渡の養鶏舎にシラコバトが多いときは数十羽たむろしています。今後、公園の変化も楽しむということで、毎年1回開催することになっています。

池にはガマが植えられたようで、夏には池

緑の丘公園とその周辺で観察された鳥

種名	2001	2002	2003	通算	種名	2001	2002	2003	通算	種名	2001	2002	2003	通算
1 カイツブリ		○	○	○	26 キジ		○		○	51 タヒバリ	○	○	○	○
2 アカエリカイツブリ			△	△	27 バン			△	△	52 ヒヨドリ	○	○	○	○
3 カムリカイツブリ			△	△	28 オオバン	△	△	△	△	53 モズ	○	○	○	○
4 カワウ		○	○	○	29 コチドリ		△		△	54 ジョウビタキ				△
5 アマサギ	○	○	○	○	30 イカルチドリ		△	○	○	55 ノビタキ		△	△	△
6 ダイサギ	○	○	○	○	31 ムナグロ	○	○	○	○	56 ツグミ	○	○	○	○
7 チュウサギ	○	○	○	○	32 ケリ		△		△	57 ウグイス		△	△	△
8 コサギ	○	○	○	○	33 タゲリ	○	○		○	58 オオヨシキリ		○	○	○
9 アオサギ	○	○	○	○	34 イソシギ	○	○	○	○	59 セッカ		○	○	○
10 ゴイサギ			○	○	35 チュウシャクシギ		△		△	60 シジュウカラ		△	○	△
11 マガモ	○	○	○	○	36 タシギ		○	○	○	61 メジロ			○	△
12 カルガモ	○	○	○	○	37 ユリカモメ		△	△	△	62 ホオジロ	○	○	○	○
13 コガモ	○	○	○	○	38 セグロカモメ		△	△	△	63 ホオアカ			△	△
14 オカヨシガモ	○	○	○	○	39 コアジサシ		△		○	64 コホオアカ			△	△
15 ヒドリガモ	○	○	○	○	40 シラコバト			○	○	65 カシラダカ		○	○	○
16 オナガガモ	○	○	○	○	41 キジバト	○	○	○	○	66 アオジ		△	△	△
17 ハシビロガモ		○		○	42 コミミズク				△	67 オオジュリン		○		○
18 ホシハジロ	△		△	△	43 カワセミ			△	△	68 カワラヒワ	○	○	○	○
19 キンクロハジロ	○			○	44 コゲラ				△	69 シメ		△		△
20 ミコアイサ		△		△	45 ヒバリ	○	○	○	○	70 スズメ	○	○	○	○
21 オオタカ		○	○	○	46 ツバメ	○	○	○	○	71 ムクドリ	○	○	○	○
22 ノスリ			△	△	47 ショウドウツバメ				△	△	72 カケス			△
23 チュウヒ		△		△	48 キセキレイ	△	△		△	73 オナガ				△
24 チョウゲンボウ		○	○	○	49 ハクセキレイ	○	○	○	○	74 ハシボソガラス	○	○	○	○
25 コジュケイ				○	50 セグロセキレイ			△	△	75 ハシブトガラス	○	○	○	○
○：よく見られる鳥 △：まれに見られる鳥										合 計	31	57	54	75

の中にガマの群落が現れました。ガマの群落にはカイツブリの浮き巣もでき、抱卵する姿も観察できます。バンとのなわばり争いで、浮き巣を壊され、金切り声を挙げるカイツブリを見ることができました。水際にはアシの群落もでき、オオヨシキリやセッカの格好の住まいになっています。池の周りに柵が巡らされているため、比較的近い距離で鳥たちを観察することができます。

2002年の工事では、池の北側残りを掘るため秋口から工事が始まり、カモ類への影響が心配されましたが、掘削中はあまり影響はありませんでした。12月に南側と北側を接続した時点で、カモ類は何処へか移動してしまいました。北側の池は深いため、今後、潜水ガモの到来も期待できるのではないかと思います。このシーズンのカモ類には新顔は現れませんでした。カワウは池ができた時から2羽常駐のように一年中居ます。

2003年の夏、カイツブリの繁殖は5つがい数えられています。バンも繁殖しているよう

です。コアジサシの姿もよく見られますが、この場所での繁殖はありませんでした。オオヨシキリは相変わらずで、池の周りに8羽の雄が縄張りを持っています。中の島ではゴイサギが20つがいほど繁殖をしました。最初は気づかなかったのですが、セイタカアワダチソウの茂みの中に巣を作ったようで、散歩をしているご近所さんが教えてくれました。秋にかけては、アマサギ、チュウサギの塒になり、夕方は島に白い花が咲いたようになりました。猛禽類は、オオタカと2羽のチョウゲンボウをよく見かけます。冬場にはチュウヒも現れます。コミミズクは1999年以降姿を現さないようです。

2003年秋には、アカエリカイツブリとカムリカイツブリが入りました。両種とも居着きませんでした。池廻りの工事が落ち着けば必ず来てくれると思います。今年度も秋から南側の掘削を始めました。今度は駐車場を作るのではないかと思います。いっそのことこのままでいた方がよいようにも思われま



東大名譽教授 東 昭 先生

大盛況!! 年末講演会

2003年の年末講演会は、12月23日(祝)に大宮ソニックさいたま市民ホールで開催されました。大宮駅西口から5分という地の利の良さもあって、85名の方が参加されました。

第1部では、「ビデオで振り返るこの1年」と題し、四分一保雄会員(羽生市)から「ハクセキレイのアルビノ個体」の映像。菱沼一充会員(白岡町)および海老原美夫会員(さいたま市)からそれぞれの1年間の探鳥記録が上映されました。

第2部では、東京大学名誉教授、東 昭(あずま・あきら)先生をお招きして、「生き物の形の理と動きの妙」と題したご講演をいただきました。東先生は日本の航空工学の権威で、工学者の目から見た生き物の動きについて、飛ぶ生き物を主体に、彼らがどういう所に棲み(環境)、そこでどのように生きる(生態)かによって、形が変わり(形態)、動き方(運動)が異なるという合理的な美しさをお話いただきました。

一例を挙げると、私たち人間には粘性を感じない空気でも、大きさが20 μ mの杉花粉には大きな粘度がありなかなか落下しないことや、無風時における鳥のホバリングは体重20gが限界であること(タカ類は風を利用している)など、興味深いいくつかの事例でお話しされました。講演後、テレビで放映されたウインドサーフィンをするホタテ貝についての質問が出て、再度盛り上がり、予定を15分オーバーして閉会となりました。

第3部? の懇親会では、東先生を囲み、講演の続きの話や鳥談義に花が咲き、年末のひとつきを過ごし、無事に解散となりました。

野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会

●オジロビタキ

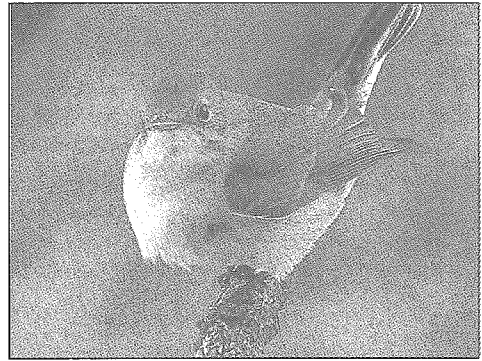
分類 スズメ目ヒタキ科キビタキ属

英名 Red-breasted Flycatcher

学名 *Ficedula parva*

最初の発見者・発見日時は不明です。久喜市内の久喜菖蒲公園に滞在中との情報を聞いた海老原美夫が2003年12月27日(土)に確認、ビデオ撮影(右)しました。過去本誌で報告されたのは、1986年2月15日に川越市今福の雑木林で確認された1例のみです。関東近県では何度か観察されていますが、県内では17年ぶり2度目ということになります。

三列羽切の羽端がバフ色であることから1年目の冬羽と判断できます。胸にわずかに朱色が見えるからオスであろうという意見もありますが、とまる位置や角度などによって、脇から腹部にかけても朱色を帯びて見ることがあります。したがって、当委員会としては、この胸の色をオスであることの根拠にはできないと考え、雌雄は不明であると判断します。



本種は尾羽の外側基部3分の2が白いことが特徴。ヨーロッパ東部からカムチャッカ半島で繁殖し、インドやインドシナ半島で越冬します。日本には数少ない冬鳥または旅鳥として迷行します。

(委員会新メンバーとして榎本秀和前普及部長が加わりました。これで委員長:小林みどり、委員:石井智、榎本秀和、海老原美夫、杉本秀樹、合計5名の構成になりました。)

埼玉県内年間鳥見ランキング
参加のご案内
HP担当 橋口長和

新年もスタートしましたが、2003年の鳥見総決算として、『2003年埼玉県内鳥見ランキング』を募集いたします。

昨年、1月1日から12月31日までの間に、埼玉県内で観察した鳥種の数および探鳥会参加回数によりランキングを決定します。観察数の多少に関わらず皆様のご参加をお待ちしております。

1. 埼玉県内観察鳥種数ランキング

- ・埼玉県内での観察であること。県境の河川敷等で双眼鏡や望遠鏡で見える範囲は可とします。
- ・観察鳥種は当支部が制定している『埼玉県内鳥類リスト』に記載されているものとし、新種に関しては、当支部野鳥記録委員会が認定した時点で加算。
- ・鳥種名、観察月日、観察場所の3項目を記載したリストを送ってください。

2. 探鳥会参加回数ランキング

- ・埼玉県支部主催の探鳥会に限ります。リーダー、参加者とも1回1ポイント（宿泊探鳥会も1ポイント）とします。
- ・探鳥会名、実施月日の2項目を記載してリストを送ってください。

3. ランキングの参加方法

- ・埼玉県支部会員に限ります。良心の元に自己申告してください。
- ・探鳥会参加ランキング申告は支部ホームページで行います。鳥種数ランキングリストはホームページからダウンロードして、記録入力後下記アドレスへメールでお送り下さい。
- ・インターネットが利用できない人は、下記

表紙の写真

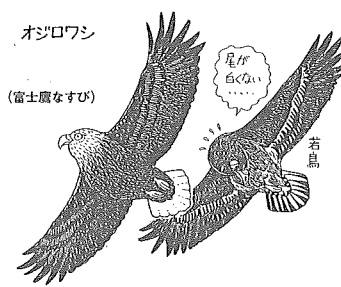
アカゲラ（キツツキ目キツツキ科アカゲラ属）

この冬、さいたま市秋ヶ瀬公園にはルリビタキが多く飛来しました。子供の森で少なくともオス2羽、メス2羽。その内オス1羽が、毎冬クロジを餌付けしている場所でミルウォームに餌付き、カメラマンたちの人気者になっていました。20～30分ごとに現れるといっせいに撮影。みんな同じ写真になってしまいそう。頭上で木をつついていたアカゲラが、いつもより呑気そうに見えました。

写真と解説 自転車鳥見人

奥日光でオジロワシ・オオワシを見る

前川佳子（坂戸市）



奥日光探鳥会は、早朝から生憎の雨で、湯の湖でも傘を頼りの探鳥となりました。今秋は暖かい小春日和が続

いたせいか、水鳥の数も少ない。湯滝周辺では、キクイタダキの群れや、流れに向かってあがくカワガラスなども楽しめました。待望のアオシギも少数の人でしたが確認しました。昼食後は中禅寺湖の千手ヶ浜へ移動、雨降りが幸いし、期待のオジロワシは浜辺の木に止まっており、皆んな代り番こに何回もスコップで観察して大いに感動しました。後ろ髪を引かれる思いで移動し始めた時、目前でオジロワシも飛びたち、その大きな雄姿にさらに感激。いまだ興奮冷めやらずの中、今度は木に止まるオオワシに遭遇。その大きくて真黄色い嘴、黄色く鋭い爪の大足、背中中の白さは本当に美しいものでした。充分堪能しているうちに、オオワシも目前で飛翔し、まるでワシ達のファッション・ショーを見ているようでした。このように雨もまた楽しからずやの感謝、感激の探鳥会でした。

住所に手製のリストを郵送してください。

・締切 2004年2月29日（消印有効）

：

橋口長和

支部ホームページ URL

<http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm>



岩槻市大戸末田堰上流 ◇9月30日、堰の水を落とした後にダイサギ、コサギ、イカルチドリ10羽。セグロセキレイ、イソシギ、カワウ。10月20日、ヒドリガモ30~40羽。10月31日、ハシビロガモ、ヒドリガモ、イカルチドリ、イソシギ。11月21日、ヒドリガモ100羽、ハシビロガモ10羽、ツグミ。12月18日、ヒドリガモ58羽、ヨシガモ♂1羽(宇田川武男・美智子)。

岩槻文化公園 ◇12月10日、体育館横の林でマヒワの声。水路沿いの小道を進むとルリビタキ成鳥♂1羽がフェンスに。さらにトラツグミも出現。シロハラとアカハラが取っ組み合いながら飛んで上昇。12月11日、カワウ、アオサギ、コガモ、イカルチドリ、イソシギ、コジュケイ、カワセミ、コゲラ、セグロセキレイ、モズ、ジョウビタキ、シロハラ、アカハラ、ツグミ、ウグイス、シジュウカラ、メジロ、アオジ、カシラダカ、シメ、カケス他。元荒川のカモが少ない。12月13日、14日、水路沿いの小道でルリビタキ成鳥♂(鈴木紀雄)。

蓮田市黒浜 ◇10月27日、沼でバン、オオバン、ホシハジロ6羽、キジ♂♀が葦原の上を飛び交った(宇田川武男・美智子)。

◇12月18日午前、沼の南の林でノスリ1羽。療養所内の林でアオゲラ♂1羽とアカゲラ♂1羽が同じ木に。午後、ノスリのいた近くにオオタカ成鳥1羽。下の耕作地に平然とキジバト約100羽の群れとタゲリ2羽(鈴木紀雄)。



クロツラヘラサギ(松村禎夫)

越谷市神明町 ◇12月26日午前、元荒川でセグロカモメ1羽(藤原寛治)。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇12月12日、C区でノスリ1羽、木にとまる。B区上空を高速で飛ばやや小型のタカ、ハイタカ? ゴルフ場側にスッと降りて見えなくなった(鈴木紀雄)。

久喜市宮蒲公園 ◇10月21日、昭和池でキンクロハジロ20羽、ホシハジロ30羽、マガモ50羽、カイツブリ。12月30日、トモエガモ♂4羽、カンムリカイツブリ3羽。キンクロハジロ、ホシハジロ、コガモ、マガモ、オナガガモ、メジロ(宇田川武男・美智子)。

◇12月20日、池の西側のフェンス付近でオジロビタキ♀1羽。池のカモの中にアメリカヒドリ♂1羽及びアメリカヒドリとヒドリガモの雑種♂1羽確認(鈴木紀雄)。

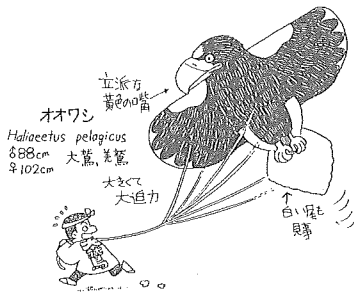
北本市石戸宿 ◇10月10日、自然観察公園でカケス十数羽が榎の実を食べて運ぶ。キジの幼鳥が木にとまっていた。10月29日、アオジ、カシラダカ、カワセミ。11月8日、カケス、榎の実にたくさんいた。カワセミ、ジョウビタキの♀、エナガが通路近くの榎に約10羽。12月3日、コゲラ多数、ツグミ多数、ジョウビタキ、シメ。12月6日、カワセミ、マガモ、カワラヒワ、ツグミ、シジュウカラ、カケス、エナガ、モズ、カシラダカ(宇田川武男・美智子)。

東松山こども自然動物園 ◇10月29日、駐車場でカケス数羽(宇田川武男)。

渡良瀬遊水地 ◇12月6日午後、鷹見台でチュウヒ5十、ノスリ2羽、オオタカ1羽、コチョウゲンボウ6羽、チョウゲンボウ1羽、ハイロチュウヒ♀1羽。コミミズクが上空を飛んだ。12月7日、チュウヒ5十、ノスリ1羽、ミサゴ2羽、コチョウゲンボウ3羽、チョウゲンボウ1羽、ハイロチュウヒ♂1羽♀1羽(鈴木紀雄)。

所沢市三ヶ島湿地 ◇12月26日午前、クロジ♂1羽♀1羽、ベニマシコ♂1羽♀3羽、ルリビタキ♂1羽♀1羽、ジョウビタキ♂1羽♀1羽。クロジはアズマネザサの下の湿地で採餌していた。ルリビタキは短くではあったがさえずっていた(小林ますみ)。

行事案内



(富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般100円、会員と中学生以下は50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出てください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：2月1日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。
交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から、北里メディカルセンター病院行きバス8：40発にて「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、樋口

見どころ：「きさらぎ」には、一度脱いだ着物をさらに着なおす、あるいは気、更に来たるの意味があるとのこと。暦の上では春はそこまで来ているのですが、鳥の世界では冬鳥の最盛期。ルリビタキやベニマシコが貴方を待っています。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

〈差間コース〉

期日：2月1日（日）

集合：午後2時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場から、東川口駅北口行き13：30発にて、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、倉林、吉岡(洋)、若林、新井(勇)、赤堀

見どころ：冬鳥をじっくりと観察できる季節です。昨年この時期には、わずか2時間で45種も記録され楽しめました。午後のひと時をぜひ差間で。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：2月8日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。
交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。

担当：榎本(秀)、中里、和田、森本、倉崎、高橋(ふ)、藤田、栗原、大澤、飛田

見どころ：どこからかジョウビタキの声。ヒヨドリもけたたましく鳴いています。小鳥たちの気配に耳を澄ませながら、ハクチョウを目指して歩きましょう。大空にタカが舞えばそれが今日のクライマックス。

さいたま市・大宮市民の森探鳥会

期日：2月8日（日）

集合：午前9時、JR宇都宮線土呂駅東口。または午前9時20分、市民の森入り口前（土呂駅東口より徒歩約7分）。

担当：工藤、藤原、松村、森(力)、松永、日根、有馬、赤坂、阿久沢(キ)、阿久沢(広)

見どころ：ヒバリの初さえずりや、芝川にカワセミ、クイナ、オオジュリン、カモ類、上空にオオタカなどを期待して歩きます。駅から歩いていける探鳥会です。気軽にお出かけください。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：2月11日（水・祝）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前または午前8時30分、中央エントランス

駐車場。

交通：東武日光線新越谷 7:15→春日部 7:29
→栗橋 7:54→柳生 8:04着。または
JR宇都宮線大宮 7:08→栗橋 7:43
着にて、東武日光線乗り換え。

解散：午後12時ごろ、谷中村史跡駐車場。

担当：橋口、玉井、内田、田邊、四分一、中里、
田村、伊藤（隆）

見どころ：冬のシーズンまっただなか、前回
はコハクチョウも現れてくれました。
今回は何種の水鳥が見られるでしょ
うか。時間が許せば鷹見台まで遠征しま
す。防寒は万全に、昼食は持参でお出
かけください。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：2月12日（木）

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパ
ーク中央駐車場。

交通：埼京線武蔵浦和駅2番バス乗り場より
「下笹目」行き 8:43発にて、「彩湖
道満グリーンパーク入口」下車、交差
点まで戻り左折して土手を越える。

担当：倉林、百瀬、松村、有馬、森（秀）、
赤坂、新部、赤堀

見どころ：平日探鳥会です。鳥たちは、1月
と変わりませんが2年つづけて猛禽が
できません。せめて今年はでてほしい。
わたしは、カモメにきてほしい。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：2月15日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東
口、集合後バスで現地へ。または午前
9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、
若林、兼元、森（力）、清水、小菅、
新部

見どころ：冬の風が吹いているが、斜面林に
沿って歩くと早春の香がする。今年こ
そ三日坊主は辞めて、冬鳥が勢ぞろい
している見沼田んぼへ鳥見にお出でく
ださい。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：2月15日（日）

集合：午前10時10分、森林公園南入り口前。

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園
南口行き 9:59発バスにて終点下車。

費用：入園料400円（子供80円）

担当：内藤、佐久間、岡安、藤掛、青山、喜多、
後藤、山田（義）、高橋（優）

見どころ：寒さの中にも春の香を風が運び、
漂ってきています。疎林に飛び交う小
鳥たちも、沼の水鳥たちもきっと感じ
ています。この時期は最高の鳥見の季
節。さあ、逢いに行きましょう。アフ
ターは梅見も最高ですよ。

本庄市・坂東大橋探鳥会

期日：2月15日（日）

集合：午前8時50分、JR高崎線本庄駅北口、
集合後、十王バス 9:10発、新伊勢崎
行きにて「坂東大橋南詰」下車。現地
集合可。工事中につき駐車に注意。

担当：北川、倉崎、堀（敏）、堀（久）、倉崎、
新井（巖）、羽入田（利）、羽入田（京）

見どころ：今年もカモが勢ぞろいしてくる
でしょうか。オカヨシガモ、ヨシガモ
の多いのがここの特長です。上空のワ
シタカにも期待しましょう。赤城おろ
しの空風は冷たく、防寒はしっかりと。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：2月15日（日）

集合：午前9時30分、西武狭山線西武球場前
駅前。

担当：石光、長谷部、久保田、池内、高橋（優）

見どころ：久しぶりの狭山湖です。定番のカ
ンムリカイツブリやホオジロガモ、他
のカモ類に期待。富士山を背景にオオ
タカが飛んでくれれば最高です。防寒
対策をしっかりとご参加下さい。

『しらこぼと』袋づめの会

期日：2月21日（土）午後1時～2時ころ

会場：支部事務局108号室

東松山市・物見山探鳥会

期日：2月21日(土)

集合：午前9時30分、物見山駐車場(峠を越えた右側)。

交通：東武東上線高坂駅西口から、東武バス鳩山ニュータウン行き、8:58、9:08発にて「大東文化大学前」下車、徒歩約5分(バス進行方向へ進みます)。

担当：島田、岡安、藤掛、志村、後藤、増尾、池永、高橋(優)

見どころ：人生山あり谷あり、そんな言葉のように、山、谷、田んぼと変化に富む場所が身近な秘境?物見山だ。気を集中して冬のゲストを探そう。去年はベニマシコ、ウソ、ミヤマホオジロに面会できました。

上尾市・丸山公園探鳥会

期日：2月21日(土)

集合：午前8時、丸山公園北口駐車場。

交通：JR高崎線上尾駅西口1番バス乗り場から、西上尾車庫行き(畔吉経由)7:32発にて「畔吉」下車、徒歩約8分。

担当：大坂、阿久沢(キ)、阿久沢(廣)、立岩、永野(安)、永野(京)、山野

見どころ：早起きは三文の徳。早朝探鳥会に参加しませんか。静かな公園や、河川敷を歩きます。運がよければ赤い小鳥たちにあえるでしょう。

羽生市・羽生市水郷公園探鳥会

期日：2月21日(土)

集合：午前8時50分、東武伊勢崎線羽生駅改札口、集合後バスで現地へ。または午前9時30分水郷公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部8:13→久喜8:27→羽生8:46着。またはJR宇都宮線大宮7:39→久喜7:59にて、東武伊勢崎線乗り換え。

担当：中里、和田、榎本(秀)、田村、宮下、四分一

見どころ：遠くに望む日光の山々は雪化粧。冬の公園は静まり返っていますが、池やヨシ原の中には鳥たちの賑わいがある

ります。そっとのぞいて見ましょう。足元では小さな春が始まっていますよ。

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：2月22日(日)

集合：午前9時、東武東上線柳瀬川駅東口前。

担当：高草木、佐久間、志村、神場、中村(治)、中村(祐)、荒木、杉原、藤沢、池内、原、山田(義)、持丸

見どころ：春を待つ新芽の土手道を歩きます。アシ原ではシメやジョウビタキ、水辺ではカモたちの求愛活動、カワセミにもあえたらうれしいね。イカルチドリとタシギは何羽いるか数えましょう。

岩槻市・岩槻文化公園探鳥会

期日：2月22日(日)

集合：午前8時40分、東武野田線岩槻駅前。または午前9時20分、文化公園駐車場(国道16号側)

交通：東武野田線大宮8:19発柏行き、または春日部8:24発大宮行きにて岩槻下車。集合後バスで現地へ。

担当：中村(榮)、吉安、橋口、玉井、松永、田中、長嶋、長野、榎本(建)

見どころ：自然林ではシロハラ、アカハラが、アシ原ではシメ、ジョウビタキが、水辺ではカモやカモメの仲間が見られます。冬鳥の待つ文化公園にどうぞ。

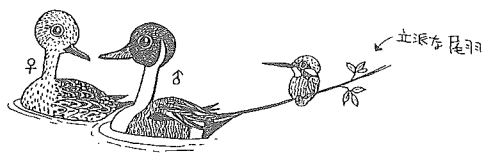
深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：2月22日(日)

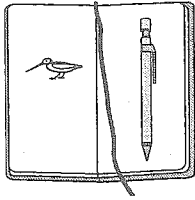
集合：午前9時、JR高崎線深谷駅南口ロータリー。

担当：菱沼(一)、倉崎、堀(敏)、堀(久)、藤田、新井(巖)、羽入田(利)、羽入田(京)

見どころ：セキレイ類4種とキクイタダキ、シロハラなどの小鳥たち。運がよければトラツグミに期待がかかります。



オナガガモ(富士鷹なすび)



行事報告

10月25日(土) 行田市 さきたま古墳公園

参加: 37人 天気: 曇

カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ タシギ キジバト アカゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) スタート前は、今日はジョウビタキが出てくれるかなとの話がにぎやかに取り交わされていたが、そのとおりになりお楽しめた。出現鳥は少なかったが、ここの探鳥会初登場のタシギを全員がじっくりと、長くちばしを湿地に突き刺し採餌するところも見られた。柿が枝にたわわに実り、シジュウカラ、メジロ、ムクドリが採餌。カラスがそれを追い払うように飛来して「しょうがないな」の声も聞かれた。カラスが今回はずいぶん多いように思えた。千両役者ジョウビタキを見て安心した探鳥会であった。(内藤義雄)

10月26日(日) 川越市 西川越

参加: 51人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ チョウゲンボウ オオバン イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス シジュウカラ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) まず公園の池でカモを見る。マガモ、ヒドリガモも入っている。モズの高鳴きを聞きながら土手の上に出るが、小鳥はいまいち。チョウゲンボウが出る。入間川では、ここで初記録のオオバンが見られた。帰り道ではジョウビタキ♂2羽をゆっくり見られた。(佐久間博文)

11月3日(月、休) 羽生市 水郷公園

参加: 22人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ オシドリ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ トビ クイナ バン オオバン イソシギ タシギ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 公園内のケヤキがきれいに色づき、秋も日に日に深まりを増している。小雨の中でのスタートとなったが、じきに止んだ。早速オシドリ♂が迎えに来てくれた。もうきれいに銀杏羽になっている。初めて探鳥会に参加した人は驚きの声を上げていた。ここ数年、毎年この池にやってくる。それでも全体的にはカモたちは数が少ない。アシ原ではツグミが地上で餌をついばんでいる様子をじっくり見ることができた。今季初めてである。一通りの冬の鳥は揃っていたが、定番のシラコバトが見られなかったのが残念であった。(中里裕一)

11月3日(月、休) 上尾市 丸山公園

参加: 29人 天気: 小雨

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ タシギ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) 濃霧で見通しが悪かったが、駐車場の道路を挟んで反対側にタシギやキセキレイが出た。これは験がいいと思ったが、いざ園内へ進んでみると鳥影が少なく、雨が降り出す。荒川の土手下で降りが激しくなってきたので、公園の休憩所に逃げ込み、早めの鳥合わせ。予報では昼過ぎからの雨だったのに誠に残念無念。(大坂幸男)

11月9日(日) 熊谷市 大麻生

雨のため中止。

11月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 13人

赤堀尚義、新井浩、池内輝明、伊藤泰一郎、江浪功、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、志村佐治、藤掛保司、藤野富代、水谷真人、百瀬修

11月16日(日) さいたま市 三室地区

参加: 80人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ハシビロガモ キンクロハジロ チョウゲンボウ クイナ バン イカルチドリ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシブトガラス ハシボソガラス (35種) 参加者80名とにぎやかだった。また冬鳥が勢ぞろいして、カワセミも何回も出現して楽しませてくれた。大人数なので、交通事故と他の人から指を指されない行動をと全員注意した。鳥を見せて貰っているという意識を持つとうと考えた探鳥会だった。(楠見邦博)

11月16日(日) 富士見市 柳瀬川

参加: 37人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ キンクロハジロ オオタカ キジ イカルチドリ イソシギ タシギ キジバト カワセミ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 出発の時から目の前をジョウビタキ2羽が行ったり来たりの歓迎。期待されたタゲリの代役にカワセミが出現し、オオタカの舞う姿に中学生も感激。中州ではタシギが待っていた。(高草木泰行)

11月20日(木) 栃木県 奥日光

参加: 24人 天気: 小雨

マガモ カルガモ オカヨシガモ ヒドリガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ オジロ

ワシ オオワシ オオバン アオシギ アカゲラ コゲラ セグロセキレイ カワガラス ミソサザイ ヒヨドリ ツグミ キクイタダキ エナガ コガラ ヤマガラ シジウカラ ゴジウカラ メジロ イカル カケス ハシブトガラス (28種) 小雨がぱらつく奥日光は、晩秋としては暖かかった。中禅寺湖千手ヶ浜では、運良く樹上にたえずむオジロワシを見つけて一同感激。さらに幸運にも、オオワシの勇姿にも巡りあえて一同再度の大感激。帰路につく我々を、鹿の小群が「よかったね」と見送ってくれた。(榎本秀和)

11月23日(日) 本庄市 坂東大橋

参加: 35人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ トビ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 風もなく、探鳥会には絶好のコンディション。カモは例年よりずっと少ないものの、一通りの種類が見られた。その中に、ハジロカイツブリが2羽。最後はオオタカの飛翔をじっくり楽しんで解散。(北川慎一)

11月23日(日) さいたま市 見沼自然公園

参加: 54人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ チョウゲンボウ コジュケイ バン オオバン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 晩秋の穏やかな日和。里山の紅葉が例年になくきれいだった。加田屋川でカワセミをじっくり見られて、まずは一安心。斜面池では、当コース初認のエナガが出現。自然公園の池ではオカヨシガモを始めカモ類が身近に観察できて、初参加の方々に喜ばれた。(工藤洋三)

連絡帳

●チェックリスト2003に誤り

79 オオノスリは県内未確認なのに間違っ
て入っていました。削除します。

80から102までは番号がひとつずつ小さく
なります。

オオバンと103コチドリの間に、抜けてい
た102タマシギ科タマシギが入ります。

したがってその当時の確認種数312には変
わりがありません。

次回作成時には訂正します。申し訳ありま
せんでした。

●読売新聞からエッセー執筆依頼

「どうぶつにつき」という仮のテーマで、
毎週日曜日の埼玉県版にエッセーを掲載した
い、県内のほかの3団体と順番に書くことで
協力してほしいとの依頼がありました。

800字に満たない短い原稿ですから、紙面
上の扱いは小さいと思います。当支部担当部
分は2~4月のそれぞれ月初めに掲載される
順番になりそうです。海老原美夫副支部長が
執筆します。

●鳥獣保護員の活動例

ほんの一例ですが、昨年5月には荒川にア
ゴヒゲアザラシのタマちゃんが現れ、その保
護のための監視も役目のひとつになりました。
福井恒人鳥獣保護員は、かなりの日数保護監
視活動を続けました。

昨年11月末にはカスミ網でのウグイス密
猟に関する通報が支部事務局にありました。
福井鳥獣保護員が警察と連絡をとって現地調
査を実施しました。結果として密猟者たちは
現れませんでした。密猟の抑止力になった
のではないかと思います。いざという場合
の警察との連携も確認できました。

●シラコバト見つけ隊最終報告進行中

野鳥の会のインターンである東京農業大学
学生から、シラコバト見つけ隊のデータを、
社会的・地理的な様々の条件で解析し、卒業
論文にまとめたいとの申し出がありました。
データの使用を認めたと、12月の役員会
に同人が出席し、中間的な報告がありました。

見つけ隊としては、その解析結果も参考に
して最終報告書をまとめようと、準備を進め
ています。

●2月の事務局 土曜と日曜の予定

7日(土) 3月号編集作業。普及部会議。

14日(土) 3月号校正(午後4時から)。

15日(日) 役員会。

21日(土) 袋づめの会。

●会員数は

1月1日現在2,493人です。

活動報告

12月13日(土) 1月号校正(海老原美夫、
大坂幸男、藤掛保司、山田義郎)。

12月21日(日) 役員会(司会:大坂幸男、各
部の報告・講師派遣依頼への対応・行事予
定の変更など)。

12月22日(月) 支部報だけの会員向け、1
月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。

編集後記

午後から『しらこぼと』編集があるという
日の朝、昭和池へ。まず話題のオジロビタキ、
ゲット。次に久々のトモエガモ。よしよし、
今日はツイてるみたい。午後は秋ヶ瀬か彩湖
に行こ♡ 編集は、さぼっちゃおうかなーと
考えていたら、同じ編集部のF氏にバッタ
リ。午後の計画はつぶれた…きっと向こうも
そう思っていたにちがいない。(みどり)

しらこぼと 2004年2月号(第238号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載
は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社